（昭和五年三月廿一日 第三種郵便物認可）
昭和十年八月三十日〔日刊〕 新いわき 〔金曜日〕第一千五百五十八號 一

八月二十九日 夕刊

日曜祭日を除く毎日午後一時刊
定價一ヶ月二十五錢 郵税十五錢 一部二錢
廣告料 一行四十錢 場所指定 貳拾錢增
發行兼編輯人 牛谷政吉
發行所 福島縣平町大字三町 新いわき新聞社

濱通り署長會議に
斷固選擧取締訓示
伊藤知事、後藤檢事正臨席
明日平署會議室に召集

（展報）蒲正の嵐の中に今や刻々目前に迫つて來る縣議戰に縣警察部は全力を集注して選擧界の革正に努めてゐるが今二十九日午前八時から平署會議室に小野新町、植田、四倉、富岡、浪江、原町、中村、平の濱三郡警察署の部長級以上幹部署員の講習會を開催、畠田本縣警察部長、後藤檢事正、猪股內務省事務官、平檢事局清田上席檢事講師となり、改正選擧法に第一次の選擧に對する各種の往意取扱方法等を詳細講授したが更らに明三十日午前八時から前記八警察の署長會議を招集畠田部長から選擧取締の根本方針を訓示蒲正の徹底化を望む筈であるが當日は特に伊藤知事、後藤檢事正も會議に臨席する事に決定した、即ち署長會議召集理由として縣の發表によれば……

選擧界多年の積弊をさん除して廓清の實を擧ぐるに就ては警察官に負荷されたる責務極めて重大なるを以つて今秋の縣會議員總選擧に際しては全警察官を統制し苟も一黨一派に偏せず又情實緣由に左右されず何ものにも屈せざる不動の信念を以つて眞に嚴正公平なる取締りを行はんが爲め左記により署長會議を召集するに至れり、因みに後藤檢事正を始め所轄檢事局檢事も會議に出席檢事警察官合同の協議打合せをなし一心同体となり取締と違反檢擧の徹底を期せんとす、

以上

尙署長會議に於ける知事の指示注意事項は次の如くである

△指示事項

一、選擧犯罪取締の件
二、選擧ブローカーその他惡質の選擧犯罪取締に關する件
三、選擧犯罪の防止
四、選擧運動費用取締規定の勵行
五、取締り警察官の言動
六、選擧犯罪被疑者の取扱
七、檢事警察官の連絡協調

△注意事項

一、選擧肅正運動に名を藉り不正運動を爲す者の取締
二、團勢調査と選擧運動の混用防止並に取締
三、選擧運動の爲にする集會の取締に就いて
四、犯罪捜査上の注意 以上

野崎氏擁立決定
民政別動隊總會
昨日住吉屋本店に開催

色めく縣議戰に郡下のトップを切つて二十八日午後二時から平町住吉屋本店で開かれた民政部會（別動隊）總會は縣支部から氏家前代議士、山田六郎縣議臨席、會員二百名出席黨務報告議事の後役員改選に入り

部會長野崎滿藏 副部會長 吉田藤三郎 鈴木孝章 幹事長山野邊義政 政務調査會長永山久助（三坂） 副新井滋造 評議員會長鎗崎半右エ門 佐藤幸太郎 遊說部長馬目雅治 副小松茂 情報部長小濱長太郎 副緣川喜三郎 以上

決定次いで各町村一名宛の銓衡委員により縣議戰の對策並に候補者擁立を協議した結果野崎滿藏、吉田藤三郎兩氏を擁立縣支部の公認を要求する事に決定した宣言決議意見發表等あり盛會裡に閉會した

郡下の流行傳染病
前年より幾分減少
當局の豫防と一般の衛生向上
今度嗜眠病の豫防を開始

惡疫の流行に備へ平署では町村衛生當局と協力豫防に努めてゐるが殊に嗜眠性腦炎が東郡に發生以來漸次東北方面に蔓延の兆があるので徹底的に豫防の必要ありとし近く管內衛生關係者を召集して惡疫流行豫防を協議する筈であるが平署管內四町十八ヶ村に於ける今年一月以來今二十九日までに發生した種傳染病は次の如くである

▲腸チブス六十名▲赤痢並に疫痢十九名▲猩紅熱七名▲ヂフテリヤ十六名▲パラチブス三名計百四十五名

で此れを前年同期までのチブス四十七名、赤疫痢三十四名猩紅熱十五名、ヂフテリヤ七十三名、パラチブス七名計百七十六名で前年に比し三十一名の減少を示してゐるが此れは惡天候で惡疫流行にはあつらい向の氣候だつたが各町村の豫防と一般の衛生思想普及向上によるものと喜ばれてゐる

明卅日から二日間
ガソカーの試運轉
卅日は湯本……久の濱間に十回
翌日は平……小川郷間九回

平驛を中心として湯本、久の濱間及び磐越東線小川郷驛に至る鐵道のガソリンカー運轉計畫は車輛不足の爲め遲延されてゐたが愈よ本年度中には實現の筈で明三十日及び三十一日の兩日左記時間割を以て試運轉を行はれる同車輛は目下水郡線に使用されてゐる百九人乘の一輛で東京、仙台兩局から當務員出張地方特殊の筋に試乘を求めて輕快な疾走振りを見せることになつたが地元の請願に係る停留所設置は條件具備の願出順により漸次着工の筈であると

試運轉三十日午前八時平發久の濱着八時二十分 回驛發八時五十分湯本着九時二十四分 同驛發九時五十五分久の濱着十時三十九分 同驛發十一時湯本着十一時三十七分 同驛發十一時五十五分平着零時九分 午後零時四十五分平發久の濱着一時九分 同驛發一時十五分湯本着一時五十四分 同發二時久の濱着二時三十七分 同發三時十五分湯本着四時 同發四時四十五分平着四時五十六分

三十一日午前八時五十分平發小川郷着九時四分 同發九時二十分平着九時三十四分 同發九時五十分小川着十時九分 同發十時二十分平着十時三十四分 同發十時三十五分小川着十一時五十二分

午後十二時五分小川發平着十二時二十三分 同發一時十五分小川着一時二十九分 同發一時四十分平着一時五十四分（以上）

常識講座

アーメンはキリスト教徒が祈禱の終りに必ず唱ひられる言葉であるがこれは希伯來（ヘブル）語の實にとか又は眞なりと云ふ嘆賞語であつてお祈りの眞實をば更に誓ふ意である

今日の荒を經て
明日から上天氣
大風一過後の二百十日は無事
小名濱測候所の觀測談

石城地方は郡內七割に上る晩種水稻の出穗期に臨み二百十日（九月二日）の厄日を控いて數日來暗澹な空に掩はれてゐる天候の不順に一方ならず作柄を懸念されてゐるが小名濱測候所の語る所では左記の如く今二十九日の一と荒れが過ぐれば大風一過後の靜けさに返り二百十日は大体無事の見込みであると

南東の風に驟雨性の今日の模樣である此の風が通りぬけた明三十日の天候は良くなるであらう以後天候の變りが來るにしても一進間位はかゝるから二百十日は無事であらうそしてまた殘暑が嚴しくなりそうであつ

（二十九日）の天候は廿七日朝南大東島北方約二百キロ沖合に起つた颱風が徐々北方に進行して昨二十八日朝B向灘に移り示度七二八ミリが漸次北々東に進み同日夕刻には廣島附近に今二十九日朝は日本海に出てゐる其の影響を受けてゐるもので通過の區域を荒してゐる颱風は內陸を經る頃分裂の傾向を以て幾分弱くなつた

雨に祟られても
流石に赤井大祭
ズブ濡れの善男善女に賑ふ
喧嘩四件、スリ一件……

炎上後早くも第三年目の大祭を迎えた赤井嶽藥師の例大祭は午前中の快晴も午後から急激に天候惡化し遂には嵐れ模樣に急變し平驛から特發の大祭臨時列車も午後は殆どガラ空き、でも流石に赤井行の乘合自動車は雨の中にも超滿員ズブ濡れになつて登る善男善女は麓から山頂境內まで引も切らない程、雨が小止になつた午後八時頃からドツと押寄せた人波はさしもに廣大な境內も全く埋めつくされる程、此の宵の參詣者一萬五千を突破した雨に祟られたは言へ流石に地方に名高い赤井藥師の大祭だけあつて例年に比して幾分人出は尠かつたとしても物凄い人出は驚異に價する

◇ ◇ ◇

尙大祭に付もの〻スリ喧嘩等雜沓取締りの爲め平署から特派された渡邊溫、渡邊定兩部長の卒ゆる新撰組警官隊は二十九日午前十時下山したが捕者は僅に少年スリが一件……赤井村大字下小川農若野茂吉二男繁二（二四）假名……境內に軒並びの屋舊店から萬年筆や玩具パン・西瓜等手當り次第に万引して大谷刑事に檢擧された

◇ ◇ ◇

大祭の華？喧嘩は四件……好間村大字北好間居住無職岡部茂（四〇）に泥醉して踊陣の中に飛込み荒ばれ廻り踊子の赤井村福島炭礦坑夫志賀留一（一九）外四名に袋叩きにされた

內郷村內水不動澤炭礦坑夫吉田幸次（二四）は連れの踊り子綿引ユキ（一九）に對し變な素振りを見せたと言ふので四倉町新町漁夫今井力（二七）を藥師裏山中に呼び込んで叩きつけた

別世界之記
5 夢之助

この老人の頭は燦然として光り輝くに反し、生涯は實に淋しきもの〻極みであつた。事業には失敗し、女房には死に別れ、唯一人の娘は行方不明となつた。そつちこつちと知れる限りの人情の綱に縋つて見たが、どの綱も細くて脆くてすぐ切れてしまつた。勞働するには餘りに老人であつた。生きて行く唯一の道は、行方不明になつた娘を捜して世話になる事であつた。斯くして流浪の旅がはじまつたのである。七千万人の同胞だから一日千人宛調べても二百年かゝる勘定になる。行方不明の娘を捜し求めて生計の道を立てると云ふプランは、一枚の勸業債券を持つてる人が抽籤が當つて生計の道を立て樣と云ふプランと同樣に無謀のものであつた。來る日も〳〵失望落膽の日許りであつた。五臟六腑疲れ果てゝ、遂に八幡樣の東側の細道を眞直に行つて左に曲つて右に曲つて、今一度左に曲つて右に曲つて別莊に身を寄せる事となつたのである。醫者の診斷に依れば、この考人は食道のめどが段々細くなつて行く病氣に罹つてるのだ相だ。流浪の旅の苦心を物語つてる垢だらけの破れしたぎを着て、希望と光明から遮斷されて淋しく寢てる姿は、涙なしには見られない。

縣議投票紙公配

縣では縣會選擧準備上の萬全を期して例年より幾分早目に投票用紙を配布する事になり本郡下町村に對しては九月三日午前八時から平町役場會議室に町村長會を召集選擧用紙の配布を行ふ事に決定

鄕土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ　完

（瀧川家の史料採訪）

鮫川漁史

磐前縣庶務兼書記日誌掛申付候事
明治巳巳十二月　梅祭府

梅祭使被廢候ニ付免本官
庚午十月　元　梅祭府

梅祭使役中精勤候ニ付爲其賞金三千五百匹下賜候事
同午十月　元　梅祭府

山形縣十三等出仕申付候事
同午十月　山形縣

聽訟兼監正掛申付候事
同午十月　山形縣

東京出張詰申付候事
同午十二月　山形縣

任山形縣少屬
明治三年庚午十二月十七日
從四位山形縣知事　藤原朝臣俊章　宣
從七位守山形縣大參事藤原朝臣俊貞　奉行

新縣草創之際格別勉勵ニ付爲手當金五圓差遣候事
庚午十二月廿八日　山形縣

任山形縣大縣屬
明治四年辛未正月十四日
宣　並　奉行同上

明治四年十一月二日諸縣被廢候ニ付判任官一同免職ノ處猶殘御用有之滯在ノ命アリ辭令書ナシ

明治五年壬申二月十六日御用濟出仕ニ不及旨達アリ

今般御用濟申達候處長々奉職勉勵候ニ付目祿之通下賜候事
目祿　絹壹疋ニ金五十圓　山形縣

磐前縣十二等出仕申付候事
明治六年三月三日　磐前縣

聽訟課申付候事
明治六年三月三日　磐前縣

任磐前縣少屬
明治六年十一月七日

磐前縣參事從六位兒玉氏精奉
庶務課申付候事
明治六年十二月三日　磐前縣

任磐前縣權中屬
明治七年九月十二日　磐前縣

奉職以來事務勉勵ニ付其賞トシテ金拾貳圓差遣候事
明治八年六月廿二日　磐前縣廳

第一課申付候事
明治八年十二月二十日　磐前縣廳
（濟手記）

入院應需
明雲堂眼科醫院
平驛前　電六六九番

便利で經濟な日下家政婦會の
派出婦を御利用
身元確かで品行方正ですから
何をお任せしてもご安心です
下さいませ
平町字田町十八番地（西村屋横町）
日下家政婦會
會長　日下すい子
電話（呼）一八九番

會員（同志）の御加入を御誘ひ致します
派出なき閑暇に裁縫や編物を御教授致します

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
入院應需　鈴木醫院

清爽簡易なサンマードレス
……婦人用とお子さん用……
特價品豐富陳列
ツルヤ
平四　電一四〇

スペインG・H・N元詰
ゴルフポートワイン
甘味御菊酒　1・10
婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
（平2）　西村屋藥舗　（電3）

油問屋
關内油店
磐城平　電話長16
特約販賣
ガソリン　モビール油
日本石油株式會社
支店　茨城縣關本驛前　電話長平潟七三
支店　郡山市驛前通　電話長三二八
油槽出張所　平町四丁目郵便局前

債券　公債　両替　金融
多田井質店
平町大工町　電話五九一番

磐城代表酒銘
美味經濟
ヤマワマヤ醤油
山崎合名會社
電話十番

毎度御引立を蒙り御厚情深謝致します、今回當店に於て貨物自動車部を新設し金成自動車部を專屬として三十五年式新車を以て貨物一般の運輸に從事致しましたから倍舊の御用命と御利用の程を偏へに御願上ます、

親切　迅速　安全　第一
鐵道、貨物一般
小口取扱
貨物自動車運輸
清宮運送店
電話二六七番

自動車の御用は……電話二六七番へ願ひます
金成自動車部

石炭　コークス　豆炭
平町郵便局通り
水野石炭店
電話二九九番

洋服は高島屋
注文並に既製品
秋物▽入荷▽
平町二丁目　電話三八六
高島屋洋服店

雨露に晒す程度は強く吹く程度
建築は朝日
石灰セメント類
朝日建材
建築に
ばせない
やけない
くさらない
絵画物で
長期の耐久
金屋商店

マグネトロン
百萬の富より健康
此新療法で病弱を御試しなさい
『治療代』…は當分一回三十錢として居りますが家庭の事情により割引も施療も致します
嘘か實か百聞一見御試し下さい
治療所　日中は城山聚樂園（電話一〇九）　日没後は一丁目自宅（電話四七〇）
醫療士　飯田近治